

令和7年度 第1回 静岡市立清水桜が丘高等学校学校運営協議会 会議録

- 1 開催日時 令和7年4月24日(木) 午後2時から午後4時まで
- 2 開催場所 静岡市立清水桜が丘高等学校 会議室2
- 3 出席委員 遠藤委員、堀谷委員、志村委員、村山委員、佐野委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校 鈴木校長、江間副校長、松場教頭、古賀事務長
- 6 傍聴者 0人
- 7 内容

(1) 会長、副会長の選出

会長：志村委員、副会長：遠藤委員

(2) 学校の運営方針の説明・承認

- |   |               |     |
|---|---------------|-----|
| ア | グランドデザインについて  | 校長  |
| イ | 分掌・学年等の資料について | 副校長 |
| ウ | 施設・設備について     | 事務長 |
| エ | 部活動の実績等について   | 教頭  |
| オ | 学校評価について      | 副校長 |
| カ | 質問等           |     |

A委員 生徒の3年間の成長が分かる成果指標を掲げることは重要である。

定員割れの分析と改善策が必要と考える。

B委員 「信頼できる先生がいると答える生徒の割合」が80%を超えていることはよい点である。

現在、不登校が社会問題となっている。学校で対応をしてもらいたい。

C委員 よい学習環境で、生徒がいきいき授業を受けていた。

グループ学習やディスカッションをしている姿が見受けられた。社会に出たときには必要なことである。

3年間を見通した教育方針は必要である。

特に「突破する力」は、社会人には必要な能力である。

桜が丘高校は人気のあるイメージを持っているが、何故定員割れとなったか分析が必要である。

社会問題である不登校、発達障害、貧困家庭などの対応も検討する必要があるのではないかと。

D委員 情報発信は重要である。

多様な価値観を持った中学生がいる。中学生から人生のビジョンづくりが大切となる。

E委員 各委員からの発言は、貴重な意見であった。

マネジメントプランを示した資料はとてもまとまっている。

3年間を見通した生徒の育成を継続してもらいたい。

定員割れの原因は、複合的な要因が考えられるが分析は必要である。

(3) 意見交換

C委員から「人口流出が問題とるなか、教員、生徒および保護者の方々に、魅力的な地元企業の存在を知って欲しい。大学進学する生徒は多いと思うが、高校生のうちから地元企業を知ることは、地元就職を促す観点からも重要と考える。」との発言があり、意見交換を行った。